

御岳にリバークリーン回収BOX

都内中学生が 考案 SDGsの具体策



外枠の木材は柴田さんが用意した廃材
酢平☆さんが鮮やかに描写

千代田区の東京家政学院中学校の生徒たちが考案する「リバークリーン回収BOX」が御岳溪谷に設置される。11月30日には、回収BOXに給付けを実施。青梅市在住の画家・酢平☆(すっぺ)さんと、御岳溪谷を拠点にラフティングプランナーとして活躍する柴田大吾さんが、生徒のデザイン案を元にペンキで描

写した。柴田さんは「魚をボートに見立てる着想がおもしろい。明るい絵柄でゴミ問題解決につながるべ」と目を細める。

回収BOXの制作は同校の「SDGsプロジェクト」の一環で実現。生徒たちは今年7月、東京山間地域でSDGs体験ツアーを提供する東京マウンテンツアーズと柴田さんが企画する「リバークリーン」に参加し、御岳溪谷のゴミ問題を体感。以来、解決の具体策を模索してきた。

川ゴミを拾った人のためのゴミ箱にしたい。全員で思案して、名称はリバークリーン回収BOXに決定。デザインスケッチを生徒一人ひとりが持ち寄って、柴田さんらと話し合った結果、吉見かれんさん発案の本デザインに決定した。

吉見さん曰く、コンセプトは楽しく、気持ちよく、「ゴミがなくなれば人はもちろん、魚や川の生き物も笑顔でいられる。そんな願

いを込めました」と頬を緩める。



22案から選ばれた
吉見かれんさんのデザイン

奥多摩のわさび田復興 次回は12月19日開催

サイクリング。途中、古民家で奥多摩汁とわさびおにぎりの昼食も。その後、わさび田で作業を実施する。「作業が早くて、丁寧で驚いている。ご厚意に感謝」とデイビッドさん。

11月23日、自然災害などで崩壊したわさび田の再生作業をお手伝いする「奥多摩わさび田再生プロジェクト」が開催された。参加者11名、スタッフ7名の総勢18名で約2時間復興作業を行った。

わさび田の持ち主はオーストラリア人のデイビッドさん。江戸時代から栽培される「奥多摩わさび」は名産品のひとつだが、2019年の台風被害や生産者の高齢化により、わさび田の存続が危ぶまれている。少しずつ作業を進めるデイビッドさんを手伝う企画だ。



土に触れ泥んこになつての再生作業